

令和5年度実施

中央区

地域活性化事業交付金

事業まとめ誌



相模原市 中央区役所

目次



「地域活性化事業交付金」について	1
------------------	---

小山地区

・小山地域の人と人をつなげるプロジェクト	2
----------------------	---

清新地区

・子育て世代応援事業プロジェクト	4
・清新ごみ分別マナーアップ事業 ～自分のまちから美しく～	6
・清新ふれあいフェスタ	8

中央地区

・中央地区防災フェスタ	10
-------------	----

星が丘地区

・自治会回覧板のDX化	12
-------------	----

光が丘地区

・子どもの交通事故を抑止する活動事業	14
--------------------	----

大野北地区

・伝統文化とのコラボレーションによる地域活性化事業	16
・大野北子育て応援プロジェクト	18

田名地区

・紙芝居やカルタによる地域伝統の継承	20
・地域活動促進事業	22
・田名地区三菱重工相模原ダイナボアーズ応援事業	24

上溝地区

・上溝さくら公園イルミネーション事業	26
・すきだよ かみみぞ～上溝かるたをつくろう～	28

「地域活性化事業交付金」について

地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

対象事業

- ・地域の防災・防犯に関する事業
- ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- ・地域福祉の増進に関する事業
- ・産業や観光の振興に関する事業
- ・環境の保護・保全に関する事業
- ・青少年の健全育成に関する事業
- ・地域の文化・伝統の振興に関する事業
- ・生涯学習に関する事業
- ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- ・区が推進する重点事業
- ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

優先的な交付対象事業

- ・自治会への加入促進
- ・地域における公共的な活動の担い手育成
- ・公共的な活動への参加者増加
- ・地域の公共的な活動団体間の連携強化
- ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決

交付対象とならない事業

- ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。
- ・第三者への事業促進を求める事業
- ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業

交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体。

申請にあたり、事前に事業を実施する地区のまちづくりセンターの相談が必要。

当該年度の事業実施期間は、4月1日から翌年3月末までとする。また、同一の事業に継続して交付する場合は、3年を限度とする。

交付金の対象経費（交付率は10分の10以内）

- ・事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
- ・事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
- ・事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
- ・事業を行う上で必要な委託費等
- ・イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
- ・講演会等の講師に対する報償費
- ・研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。）
- ・その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

備品（物品等で1件1万円以上の財産）にかかる経費の交付率は、対象経費の3分の2以内。

小山地区「小山地域の人と人をつなげるプロジェクト」2年目

小山の地域をつなげる会

1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行されたことに伴い、地域団体の行事や活動は徐々に以前の活動状況へ戻りつつあるが、小山地域内にある子ども会の数も激減しており、子ども同士はもちろん、子どもと大人が交流できる機会も減ってきている。

こうした課題を解決するため「遊び」、「学び」、「語らい・ふれあい」を中心とした多世代交流の事業を実施し、地域住民同士のつながりを深め、より安全安心で住みよいまちづくりや地域の活性化を取り戻すことを目的としている。

2 内容

多世代交流事業の実施（歌の集い、廃油石鹸づくり、昔遊び体験等）

詳細な事業内容については「（参考）実施経過」を参照。

総事業費：81,950円

うち交付金額：80,000円

3 成果と今後の展望

今年度は主に小山地区青少年健全育成協議会と連携を図りながら、多世代交流事業を実施した。

その結果、子どもから高齢者までが参加し、和気あいあいと楽しみながら小山地域内に住む住民同士の交流を深めることができた。

特に、高齢者が多く参加される「歌の集い」及び「絵手紙教室」を定期的で開催することにより、高齢者の孤独・孤立防止を図りつつ、人とのつながりを強化することができた。

引き続き、小山地域内の団体と協力・連携を図り、地域住民同士のつながりをさらに深められる事業を実施したい。

（参考）実施経過



クリスマスコンサート

実施日	実施場所	参加人数	内容
4月15日 5月20日 6月24日 7月22日 9月16日 12月19日 1月26日	公民館	合計88人	歌の集い（計7回開催）
8月26日	公民館	12人	けん玉にチャレンジ
10月21日	公民館	8人	廃油石鹸づくり
12月23日	公民館	46人	クリスマスコンサート
11月21日 2月8日	公民館	合計23人	絵手紙教室（計2回開催）
2月23日	公民館	32人	みんなのお話し会

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 小山地域の人と人をつなげるプロジェクト

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）	
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		地域団体の解散や行事の縮小化等により、地域住民同士の交流する場が減少している中、小山地域内の子どもから高齢者まで楽しめる多世代交流事業を計画・実施し、地域の活性化に貢献している。 また、小山地区内の活動団体（小山地区青少年健全育成協議会）と連携しながら事業を実施したことから、第2条第2項の視点を取り入れた事業であったといえる。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		本事業は、月に1回のペースで子どもから高齢者までが楽しめる事業を企画し、子ども同士はもちろん、子どもと大人が交流できる機会を作っていることから事業内容は妥当であったといえる。 また、支出についても、会議室等使用料、周知チラシ印刷代及び各種行事に係る消耗品購入費など、本事業を運営していくにあたって必要最低限の支出であり、過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		本事業は、構成団体をはじめ、小山地域内の関係諸団体との連携・協力によって実施されたものであり、全てにおいて自立的であるといえる。 講師についても、構成団体の知り合いのほか、人材を積極的に探しており、継続性が期待ができる。
			2 事業が主体的に実施されたか。		
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本事業により、多世代交流事業のニーズを把握できたことから、小山地域内の関係諸団体にも良い波及効果を与える事業になったといえる。来年度以降は、本事業のみならず、関係諸団体においても、多世代交流事業が実施されることを期待したい。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		年間を通して多世代交流事業を実施し、地区の住民同士のつながりを深めていることから、所期の目標を達成しているといえる。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「子どもの健全な育成環境の充実」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業といえる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

A

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

清新地区「子育て世代応援事業プロジェクト」1年目

一般社団法人 Kids Fine

1 背景と目的

身近な地域の子育て世代の方が困ったときや、誰かに聞いてみたいモヤモヤした子育てのことなどを、子育て中の親子がリラックスした空間の中で交流する場を提供する。

また、子どもと一緒に簡単に遊んだり、自宅で飾りたくなる作品を作るとともに、筆文字アート講師の協力を得て子どもの成長記録を体感するなど、育児を楽しめる各種提案を行う。

清新地区地域における子育て世代の方が、孤立しないで笑顔で過ごせるお手伝いすることを目的とする。

2 内容

子どもや子育て家庭等のニーズに応じた育児相談

子どもや子育て家庭が抱える様々な場面での悩み等に気軽に相談する場所また必要な方に福祉サービスや行政につなげていける案内所の役割

育児不安の軽減のための保護者同士の情報交換の場の確保

育児で孤立することなく楽しんで子育てができるよう、保護者同士で気軽に集い育児の悩みや不安を共有・共感できる情報交換の場

子どもの遊び場&居場所の確保

乳幼児期の親子の遊び場の充実を図り保育経験を活かしおうち時間のあそびの提供

総事業費：286,430円 うち交付金額：255,000円

3 成果と今後の展望

元々幼児教育に携わっていた経験を活かし、地域の子育て世代が孤立することなく子育てを楽しめる環境づくりに役立てばとスタートした当法人だが、当該事業により安定的にイベントができたことでリピーターを得ることができた。また、自治会役員の方々とも交流ができ親交を深める一因となった。必要な方に届かない課題が見え、今後は地域の民生委員などにも活動を紹介し、更に地域に根付いた活動にしていきたい。



子育て交流会の様子

(参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
毎月	10~30人	親子遊び・手形アート・ベビーマッサージ
9/16	100人	自治会秋まつり(比丘口公園)ワークショップ
10/17	10人	羽休め時間(アート時間・緑茶利き/バレトン教室)
11/5	70人	市民フェスタアロマとバスボムショップ・食品サンプル
12/19	23人	親子クリスマス会

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 子育て世代応援事業プロジェクト

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		地域の子育て世代が孤立することなく子育てを楽しめる環境作りに資することができている。積極的に地域と関わることにより、清新地区全体の活性化にもつなげることができた。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		本事業は地域の子育て世代が孤立することなく子育てを楽しめる環境作りに資する事を目的としており、事業内容は妥当であった。支出についても、講師謝礼や材料費などに使われ、過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業は継続的に実施されており、構成団体会員や講師など多様な人材によって成り立っていた。運営も含めて主体的に行われており、自己資金の確保にも努めている。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本事業により、子育て世代のニーズを把握できたことから、清新地区内の関係諸団体にも良い波及効果を与える事業になったといえる。また、同類事業を展開する地区社協の役員などに運営のアドバイスをいただいたことは、他団体との連携強化に資しお互いに良い波及効果が得られたものとなった。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		1年目の試みとなったが、限られた担い手の中でも無事に開催することができた。参加者からも喜びの声を聞くことができた。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「子どもの健全な育成環境の充実」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業といえる。また、外部講師を招くことや、自治会と交流を行うなど、地域資源を生かした事業であった。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

A

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間で改善が困難と見込まれる場合

清新地区「清新ごみ分別マナーアップ事業 ～自分のまちから美しく～」

1年目

清新地区まちづくり会議環境整備班

1 背景と目的

令和5年度における清新地区まちづくり会議において、「ごみの分別をあらためて周知する必要がある」、「曜日に関係なくごみを出している」等の地域の環境整備に係る課題が示された。その課題解決に資するため、「ごみと資源の日程・出し方」啓発シートの作成を行い、清新地区の全世帯に配布することとなった。

2 内容

清新地区の全世帯に「ごみの分別及びごみと資源の日程」を分かりやすく示した啓発シートを配布し、地区住民のごみの出し方のマナー意識の向上を図るとともに、当該発行物に自治会のPRにかかる記事を掲載し、会員の加入促進に資する取組とする。

総事業費：343,035円 うち交付金額：343,000円

3 成果と今後の展望

清新地区まちづくり会議で話し合った課題に対して、解決策を具体化することができた。参加者がデザインについて話し合うことも、ごみ分別への理解を深めることになったと思う。また、配布先を清新地区内の全世帯とすることで効果をより高めることができた。

来年度も引き続き、清新地区内の環境整備について話し合いを続けていきたい。また、ごみ分別啓発チラシの配布後の感想なども聞ければ事業に反映していきたい。



(参考) 実施経過

ごみ分別啓発チラシ(両面)

実施日	参加人数	内容
6月21日	17人	目的の共有と方向性の決定
7月19日	15人	清新地区内の環境整備について話し合い
9月20日	17人	事業名称の候補選定、配布先について話し合い
11月15日	15人	ごみ分別啓発チラシのデザインについて話し合い
2月21日	13人	ごみ分別啓発チラシのデザインについて話し合い
3月15日	-	ごみ分別啓発チラシの納品(13,400枚)
3月27日	-	ごみ分別啓発チラシの配布完了(10,500世帯)

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 清新ごみ分別マナーアップ事業
～自分のまちから美しく～

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		清新地区まちづくり会議で地域の課題が抽出され、環境整備のために、ごみ分別啓発チラシの作成が行われた。清新地区内の全世帯配布とすることで、効果を高めることができた。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。デザインと印刷費、ポスティングの委託料のみである。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業はまちづくり会議を中心に話し合いがされ、チラシのデザイン検討や配布方法を含めて主体的に実施された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		まちづくり会議を構成する、様々な団体を巻き込みながら、チラシのデザインを作ることができている。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		初めての試みとなったが、少ない担い手の中でも無事に配布を完了することができた。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		ごみの収集日ごとに清新地区内のチラシを6種類作成し、あらかじめ曜日を印刷したデザインにすることができた。また、裏面には自治会加入促進の取組も取り入れられている。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 \times が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて \times の項目がない、
又は、 \times のついた項目も容易に改善しうる場合
- C： \times の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

清新地区「清新ふれあいフェスタ」

2年目

清新ふれあいフェスタ実行委員会

1 背景と目的

令和3年度のまちづくり会議において、「担い手不足や子供たちの居場所づくり」が地域課題として示され、その課題解決に資するため、令和4年度に「清新ふれあいフェスタ」を初開催した。

令和5年度も引き続き、世代を超えて誰でも参加でき、親と子ども、高齢者と子どもたち、みんなが交流し楽しめるイベントとして実施し、地域への定着化を図る。

2 内容

開催日時：令和5年10月29日（日）午前10時から午後2時まで

eスポーツとプラレール会場で遊びを体験できる場所を提供する。

ふれあい動物園の開設のほか、バルーンアートやパズルなど多世代が交流できる場所を提供する。

事業の周知は地域情報紙、自治会掲示板及び回覧板、学校や幼稚園等へのチラシ配布とする。

総事業費：662,437円

うち交付金額：623,000円

3 成果と今後の展望

令和5年10月29日に、清新小学校にて「清新ふれあいフェスタ」を実施し、当日は子どもから高齢者まで幅広い世代の人々が500人以上来場した。2年目では新たな試みとして、子どもに人気のプラレール体験を実施した。

来年度は3年目となり、地域活性化事業交付金の交付最終年度となる。4年目以降も、地域に根差した事業として実施できるよう、自立に向けた企画・運営についてまちづくり会議の中で話し合っていきたい。



プラレール体験、ふれあい動物園の様子

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内容
6月21日	17人	目的の共有と方向性の決定
7月19日	15人	具体的な内容の決定、スケジュール管理
9月20日	17人	清新ふれあいフェスタ当日の役割分担
10月29日	500人	清新ふれあいフェスタ開催
11月15日	15人	清新ふれあいフェスタの振り返り

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 清新ふれあいフェスタ

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）	
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		清新地区まちづくり会議で地域の課題が抽出され、子供の居場所づくりのために、清新ふれあいフェスタを行った。相模原eスポーツ協会との繋がりや世代間の交流が生まれ、地域の活性化につなげることができた。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業はまちづくり会議を中心に話し合いがされ、当日の運営を含めて主体的に実施された。
			2 事業が主体的に実施されたか。		
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		2年目の試みとなったが、少ない担い手の中でも無事に開催することができた。参加者からも喜びの声を聞くことができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

中央地区「中央地区防災フェスタ」

1年目

中央地区防災フェスタ実行委員会

1 背景と目的

令和4年度の中央地区まちづくりを考える懇談会にて、「中央地区が取り組むべき防災対策について」をテーマとして懇談した。その際、住民の防災意識の低さと自治会加入率低下による「共助」機能の低下が懸念された。

そこで、地域での相互連携のきっかけや防災意識の向上、地域防災の新たな担い手を確保することを目的に、地域のすべての方が防災に興味を持ってもらえるような体験ができる「中央地区防災フェスタ」を開催することとした。

2 内容

開催日時：令和5年11月18日（土）午前10時から午後1時まで

開催場所：富士見小学校校庭及び中央公民館

- ・消防車両や防災グッズ、パネル等の展示
- ・起震車体験や煙体験などの体験ブース
- ・キッチンカー（唐揚げ、バナナジュース、カレー）のおかずでアルファ化米の試食
- ・企業や団体による防災関連ブースの出店やスタンプラリー・クイズの実施

総事業費：602,075円

うち交付金額：602,000円

3 成果と今後の展望

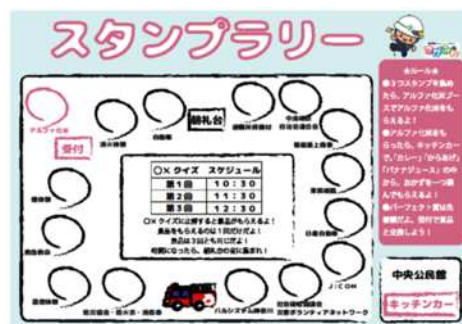
中央区役所との共催でお祭り（フェスティバル）形式により敷居を低くし、子どもからお年寄りの方まで、楽しみながら誰もが参加しやすい雰囲気の中で防災に興味を持ってもらうために防災フェスタを実施した。

多くの企業・団体に協力していただいたことで当日は約400人が来場し、防災グッズ、パネル展示等の学習ブースの他、起震車などの体験ブースで実際に災害時の体験をすることで、地域住民の防災意識の啓発や向上に貢献できた。また、スタンプラリーを実施することですべてのブースを回る参加者が多く、防災に関する知識を得られたとの声も聞くことができた。

来年度以降については、開催有無・実施主体等を含めて検討していく。

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内容
6月1日	15人	実施計画検討、策定
7月13日	18人	実施計画検討、策定
9月28日	19人	イベント実施前最終打ち合わせ
11月18日	430人	中央地区防災フェスタ実施



スタンプラリーの用紙



消防車両コーナーの様子

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 中央地区防災フェスタ

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）	
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	令和4年度の中央地区まちづくりを考える懇談会におけるテーマの課題解決に向けた取組である。 [R4年度中央地区まちづくりを考える懇談会テーマ等] テーマ：中央地区が今後取り組むべき防災対策自治会加入率低下に伴う、非自治会員や共同住宅、事業所との防災対策における地域連携	
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	本項目の全ての評価の視点を満たしている。	
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	今回は、ほぼ交付金を原資として実施したことから、次年度以降継続して実施する場合には、事業資金の調達について検討すること。	
			2 事業が主体的に実施されたか。		×
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	フェスティバル形式による地域防災力向上のための取組については、共助の必要性等について地域住民に広く周知することができ、非自治会員の自治会加入への端緒となることが期待される。今回、他区からも視察も来るなど、区を超えた市域全般にも波及することも期待できる。	
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	本項目の全ての評価の視点を満たしている。	
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	本事業は、重点的な取り組みである「地域防災力の向上」に該当する事業といえる。	
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

○：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。

○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。

×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合

B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、

又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合

C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

星が丘地区「自治会回覧板のDX化」

1年目

星が丘地区自治会DX化促進会

1 背景と目的

星が丘地区では自治会員の減少傾向による役員のなり手不足や、職務過多などが課題になっており、まちづくり会議でも持続可能な団体運営を課題の一つとして取り上げている。

自治会を脱退あるいは加入しない理由の一つとして、「月に数回も回覧板を回すのが億劫」という意見も出ており、若い世代の自治会脱退防止や役員の負担軽減の為に、自治会のDX推進が必要である。特に、自治会活動に興味を持ってもらうツールとしても、電子回覧が有効であると考えている。

2 内容

- ・電子回覧を希望する自治会員にはメールアドレスを登録してもらい、自治会ごとに回覧の内容を電子メールで配信する。電子回覧を希望しない人は、従来通りの方法で回覧物を確認してもらう。
- ・星が丘地区自治会連合会のホームページに各自治会の回覧板コーナーを開設し、回覧板を回した後に回覧を見直したい人や自治会未加入者の中で自治会に興味がある人に対しても情報を提供する。

総事業費：490,000円

うち交付金額：490,000円

3 成果と今後の展望

地域情報紙や地区社協の広報紙など、地域の情報がメールで届くことにより、イベントの日時や場所などを確認したい時に、すぐに確認出来るようになった。

紙の回覧の場合は、回ってきた時には既に終了しているイベントなどがあるが、電子回覧の場合は情報共有の効率化や迅速化につながり、その心配がなくなった。

ただし、課題点も多く、来年度は電子回覧システムの再構築を行い、安定的に電子回覧の配信を行うとともに、電子回覧登録者を増やす取組をすすめる。



(参考) 実施経過

メルマガにより実際に配信された電子回覧

実施日	参加人数	内容
9月21日	4人	スケジュールの確認、ホームページの構成打ち合わせ
11月1日		【地域情報紙】事業実施の周知
11月9日	4人	ホームページの構成打ち合わせ
12月1日		新しい地区連のホームページを開設
12月1日 21日	80人	テスト配信
12月6日	3人	電子回覧のシステム動作の確認
1月15日		【地域情報紙】電子回覧の登録方法について周知
2月1日	109人	電子回覧の配信を開始
3月1日		【地域情報紙】電子回覧の登録方法について周知

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 自治会回覧板のDX化

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		自治会を脱退あるいは加入しない理由の一つとして、「回覧板を回すのが億劫・面倒」という地域の意見を聞く等、地域のニーズを踏まえたうえで電子回覧の導入が行われた。 自治会員の回覧板を回す負担を軽減することで、まちづくり会議の地域の課題にある「持続可能な事業・団体運営」についての取組にも繋がった。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		本事業は自治会員の減少傾向による役員のなり手不足や職務過多などの課題があり、若い世代の自治会脱退防止や役員の負担軽減の為に自治会のDX化を進めていく必要がある。 なお、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		電子回覧の導入について、主体的に話が進められていた。 なお、自己資金はなく、交付金を原資として事業を実施したことから、次年度以降は事業資金の調達についても検討されたい。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		地区全体で電子回覧を導入することは、市内で初めての試みであり、今後安定的に電子回覧の配信が行われれば、他の地区にそのノウハウなどを提供できることが多いに期待される。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		電子回覧の導入の周知及び電子回覧の配信を行うことができた。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		星が丘地区として電子回覧を導入するにあたり、既存のアプリでは運用が難しかったため、独自に電子メールによるメールマガジンの機能を導入した。 また、配信にあたっては地区連のほか地区社会福祉協議会や地域包括支援センター、公民館と連携し、会議やたよりなどを配信することができた。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

A

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

光が丘地区「子どもの交通事故を抑止する活動事業」

2年目

光が丘子どもを守る会

1 背景と目的

歩行中の小学生の事故は飛び出しに起因するものが多く、小学校低学年の飛び出し事故が特に多いという統計も出ている。光が丘地区内においても、過去に子どもと自動車の交通事故が発生しており、地域の方に公園およびこどもセンターなどで子どもの飛び出しが日常多発している現状を伺ったことから、令和3年度に子どもの遊び場（公園他）を中心に飛び出しを注意するための看板を設置した。

遊び場に看板を設置し、注意喚起をすることができているが、他の場所でも飛び出しが発生している現状があるため、引き続き地域全体で子どもの安全を守るための対策を講じることを目的とする。

2 内容

- ・小学校、PTA、自治会などを通じて、地区内の危険個所に関する情報を集め、飛び出しを注意する看板（「とびだしダメ！」）を追加設置する。
- ・令和3年度に設置した看板の破損状況の確認および修理を行う。

総事業費：124,994円

うち交付金額：124,000円

3 成果と今後の展望

自治会などを通じて、地区内の危険個所（公園の出入口など）に関する情報を集め、飛び出しを注意する看板を追加設置することができ、子どもの事故を防ぐための交通安全対策を行うことができた。

また、過去に設置した看板の破損状況の確認および修理を行ったことで、看板の適切な管理に繋げることができたと考える。

地域住民の交通安全意識の向上と、交通事故抑止に繋がる具体的な活動を継続していくことが重要と考えており、住民の方の意見を聞きながら、引き続き子どもの交通事故を未然に防ぐための対策について検討を重ねていきたい。



飛び出しを注意する看板

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
9月～3月	光が丘地区全域	38人	自治会などを通じて、地区内の危険個所に関する情報を集めた。
3月	光が丘地区全域	5人	看板の追加設置（20カ所）および修繕対応（10カ所）を行った。

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 子どもの交通事故を抑止する活動事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		光が丘地区まちづくり会議にて、継続して課題の議論が行われており、歩行中の小学生の事故は飛び出しに起因するものが多く、実際に子どもと自転車の事故が発生していることから、新たな危険箇所への追加設置をするなど、地域課題に則した目的の設定ができています。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。 令和3年度に引き続き、地域の人材を活用した看板デザインが使用されており、子どもの目を引くデザインながらも経費の削減が図られている。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		本事業は光が丘地区内の団体等の連携・協力により、主体的に進められ、事業の継続性が期待できる。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		地区内の交通関係団体を構成メンバーに加え、協力しながら事業が実施され、子どもに対しての交通安全の啓発を行うことは大事であることから他区への波及効果も期待できる。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本事業は、重点的な取組である「交通事故防止対策の推進」に該当する事業といえる。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

大野北地区「伝統文化とのコラボレーションによる地域活性化事業」

3年目

ふちのべ星援隊

1 背景と目的

大野北地区は複数の大学が立地していることやJAXA相模原キャンパスの最寄り駅であること、図書館、公園があることなど、市内でも文化的な色合いの濃い地区である。

このため、地域の活性化を図る取組として日本古来の伝統文化とコラボレーションすることにより、大野北地区の特性を踏まえた特色のある地域活性化事業ができるのではないかと考え、世界文化遺産にも登録されている民俗行事である「なまはげ」を体験してもらい、地域文化への興味や地域愛の醸成を図るとともに、幅広い世代の地域住民同士の交流が促進されることを目的として開催した。

2 内容

世界文化遺産に指定された「なまはげ」によるパフォーマンスとなまはげ太鼓の披露

- ・公民館大会議室でのパフォーマンス披露
- ・淵野辺駅北口デッキ下でのパフォーマンス披露

総事業費：403,000円

うち交付金額：403,000円

3 成果と今後の展望

日本古来の伝統文化とコラボレーションすることにより、大野北地区の特性を踏まえた特色のある地域活性化事業を通じて多くの方々に参加いただき、地域文化への興味や地域愛の醸成等を図るとともに住民同士の交流を図ることが出来た。今後も、幅広い世代の地域住民が気軽に参加しながら住民同士の交流が促進される事業を開催していきたい。



パフォーマンス披露の様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
2月3日	大野北公民館	約100人	13:30～ 公民館大会議室でのパフォーマンス披露
2月3日	淵野辺駅北口	約300人	15:00～ 淵野辺駅デッキ下でのパフォーマンス披露

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 伝統文化とのコラボレーションによる地域活性化事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	日本古来の伝統文化に直接触れられることを通して、地域の文化に興味を持つきっかけづくりとなり、地域への愛着を深めるために寄与する本事業は、世代間交流を図れるなど地域のニーズにマッチした事業であり、解決すべき地域課題は明確であった。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	開催に向けた出演団体との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
			2 事業が主体的に実施されたか。	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	世界文化遺産である「なまはげ」を大野北地区にて実施したことで他の団体や地域住民への波及効果が生まれたと思う。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	地域住民が地域の文化に興味を持つきっかけとなり、地域への愛着を醸成できた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	世界文化遺産に登録されている民族行事である「なまはげ」を体験することで、自分たちの地域の文化に興味をもち、地域愛の醸成を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」（全ての区民が連携・協働できるよう取り組みます）に沿った内容であった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

大野北地区「大野北子育て応援プロジェクト」

相模原おやこ劇場でいらブロック

1年目

1 背景と目的

近年の大野北地区における子育て世代の転入の現状において、孤立した子育てや不安を抱えたケースが見受けられるとともに、コロナ禍で制限された人間関係は子育て世代の居場所や繋がりを作る機会を減少させている。そのような現状を踏まえて、成長する子ども達に「音あそびやマリンバコンサート」のイベントを通じて生の音楽に触れることで心地よさや感動を肌で感じながら親子のコミュニケーションを図り、子どもの健全育成及び子育て支援を図ることを目的として開催した。

2 内容

あしたばら音楽ラボ、マリンバ演奏者松本律子さんによる「0才から楽しむ音あそびワークショップ」と「マリンバコンサート」の開催。

総事業費：200,000円

うち交付金額：200,000円

3 成果と今後の展望

本事業を通じて多くの親子が安らぎの時間を感じながらコミュニケーションを取り、参加した子育て世代同士の支援促進や子育て情報を提供することが出来た。実際の参加者の生の声を聞くことで地域の現状の把握や課題等も見えてきたので、引続き子育て世代を応援できる企画を検討したい。



ワークショップ・コンサートの様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
3月5日	青少年学習センターホール	84人	10:30～ 11:30～ 13:30～ 14:30～の4部構成 (各回40分、定員各回15組) 打楽器を使って「0才から楽しむ音あそびワークショップ」と「マリンバコンサート」の実施

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 大野北子育て応援プロジェクト

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		大野北地区における子育て世代の転入において孤立した子育てや不安を抱えるケースが見受けられることから、子育て世代の繋がりをつくることを目的として、音あそびワークショップやマリンコンサートを通じて交流が出来る本事業は地域のニーズにマッチした事業であり、孤立した子育ての不安や居場所づくり等、解決すべき地域課題は明確であった。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		開催に向けた演者との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		地域の子育て支援をしている団体や実施事業を紹介することで大野北地区社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会との連携が見込まれる。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		親子同士で音あそびやマリン音楽を通じて芸術に興味を持つきっかけとなり、参加している子育て世代の繋がりや子どもの健全育成に寄与している。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		親子で生の音楽に触れることで心地よさや感動を肌で感じてもらいながら親子同士の交流促進を深め、子育ての健全育成の向上を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」（協働を知り、学ぶための取組の充実）に沿った内容であった。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

総合評価（A・B・C）

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

田名地区「紙芝居やカルタによる地域伝統の継承」

3年目

田名カルタ会

1 背景と目的

田名には史跡や伝統行事等が多数あって魅力的な地区ではあるものの、地域住民には浸透していない現状がある。

過去に制作したカルタや紙芝居を増刷して配布したり、紙媒体となっている物品をデジタルアーカイブ化することで、田名のことをもっと知ってもらい、後世に伝えていくことを目的とする。

2 内容

- 紙芝居制作（デジタルコンテンツ（DVDやYouTube）にも繋げられるようにする。）
- デジタルアーカイブ化
- 歴史カルタ増刷（小学校、相模原市立図書館等に寄贈）

総事業費：490,415円

うち交付金額：490,000円

3 成果と今後の展望

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館がサイト運営する郷土カルタコレクションに登録することで「田名歴史カルタ」を電子保存することができた。

相模田名民家資料館イベントに参加して紙芝居やカルタを通じて田名の歴史を伝えることができた。

紙芝居とDVDを公民館図書室や学校、高齢者サロン等に寄贈して田名の歴史等の普及啓発を行った。

今後は、カルタや紙芝居を通じて地域の方に田名のことを知ってもらうため、積極的に地域イベントへの参加や協力をしていきたい。

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
6月			田名歴史カルタを群馬大学に寄贈及び郷土かるたコレクションに登録
6～7月			紙芝居製作及び印刷業者と打合せ
8月18日	相模田名民家資料館	64人	相模田名民家資料館イベント協力（田名財産管理委員会主催） 紙芝居読み聞かせ、歴史カルタ遊びを実施
9～11月			紙芝居 田名地区区域（一部麻溝地区含む）の保育園、幼稚園、小学校、田名公民館図書室に寄贈 紙芝居・DVD 田名地区区域の高齢者サロン、市立図書館、中央区内公民館図書室等に寄贈



田名歴史カルタと田名の昔話紙芝居

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 紙芝居やカルタによる地域伝統の継承

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		田名の史跡や伝統行事を紙芝居形式に紙媒体及び電子記憶媒体（DVD）として小学校や高齢者サロン等へ配布したことで、子どもから高齢者まで地域住民に田名のことを知ってもらうきっかけとなった。 また、製作して配布するだけでなく、他地域活動団体と連携して実際に地域イベントに参加して成果品を活用することで、より効果があったと考える。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業実施にあたって、各会員の役割を分担して行う体制が整っていた。 また、財源確保のために自主制作した物品を販売するなどの取組がなされていた。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		他団体と連携してイベント参加して団体活動をPRしたり、自主財源確保への取組を行っている。実際に活動趣旨に賛同して入会する者も数名いた。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		数値目標はないが、小学生から高齢者まで田名のことを紙芝居や地域イベント等を通じて伝えることができた。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		区別基本計画の取組みの方向 - 3「誰もが桜やJAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます」の取組に該当する事業で、地域のことを紙芝居やカルタを通じて継承していくとともに、カルタを群馬大学へ寄贈することで電子保存が可能となった。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じてxの項目がない、
又は、xのついた項目も容易に改善しうる場合
- C：xの項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

田名地区「地域活動促進事業」

2年目

田名地区まちづくり会議地域活動促進部会

1 背景と目的

田名地区まちづくり会議では、「子どもを対象とした事業（イベント）」を地域で開催し、子どもが参加することで、その保護者（若い世代、子育て世代）にも地域の活動に対して興味を持ってもらい、関わってもらえるような取組について話し合っている中で、田名北小学校PTAによる「田名北小学校ふれあい広場（イベント）」が、PTA単独での開催・運営が難しい状況であったため、地域活動団体等と連携する形で開催することとなり、田名地区まちづくり会議も参加することとなった。

2 内容

- ふれあい動物園の実施
- eスポーツ体験
- けん玉教室の実施
- 開催に向けた運営支援

総事業費：180,000円

うち交付金額：180,000円

3 成果と今後の展望

「田名北小学校ふれあい広場（イベント）」を通じて、地域で活動している団体と田名北小学校PTAが連携することができ、今後の取組につなげることができた。また、田名北小学校PTAが抱えている課題（組織運営、イベント運営等）解決の一助となった。

今後もまちづくり会議で話し合うだけでなく、PTAや学校関係者との意見交換を行うなど連携しながら取り組んでいく。



eスポーツを楽しむ児童たち

（参考）実施経過

実施日	実施場所	内容
9～10月		開催準備（地域活動団体との調整）
11月18日	田名北小学校	田名北小学校ふれあい広場（イベント）への参加 ・ふれあい動物園の開催 ・eスポーツ体験会の実施 ・けん玉教室の実施
12月		地域活動促進部会での事業結果検証

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 地域活動促進事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	田名地区だけでなく、市域全体の課題である自治会加入率低下を課題と捉え、若い世代（子育て世代）にも地域活動に興味を持ってもらい、関わってもらえるような取組を検討している中、田名北小学校PTAからイベント検討及び運営の連携依頼があった。 なお、数値目標等は設定していないものの、解決すべき地域課題は明確であり、今後どのように関わっていくかが課題である。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	事業実施にあたって、まちづくり会議部会で企画検討を行い、イベント出展では担当者を分けるなど、主体的に事業実施が行なわれた。
			2 事業が主体的に実施されたか。	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	PTA主催イベントであったものの、まちづくり会議を構成する地域活動団体に協力依頼をして、連携する形で開催されていた。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	即時に設定した目標を達成するものでないが、PTAと関わりを持つきっかけとなったことが成果であると考え。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	補助事業の目的が「自治会加入促進」「公共的な活動への参加者増加」であったことから、すぐに成果が出るものではなく、今後の地道な取り組みによって結果が表れてくるものと考え。しかしながら、地域の若い世代（子育て世代）と関わるきっかけとなったことから、次年度も目標達成に向けて継続的に取組を進めてもらいたい。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	

各視点の評価

：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。

○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。

×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合

B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合

C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

田名地区「田名地区三菱重工相模原ダイナボアーズ応援事業」

1年目

田名地区ダイナボアーズサポーターズ

1 背景と目的

田名地区では、自治会加入率の低下によって、老人会や社会福祉協議会等の地域活動団体の活動にも影響が生じてしまうことを懸念し、まちづくり会議においても「自治会加入率の低下をまち全体の課題」として取り上げているところである。

そこで、田名地区内に拠点がある三菱重工相模原ダイナボアーズを田名地区が一体となって応援することで、地域コミュニティの強化と地域に対する誇り及び愛着の醸成につなげて自治会加入促進と退会防止に資することを目的とする。

2 内容

- 啓発事業・横断幕、のぼり旗、ポスターを作成し、自治会館や公共施設、協力店舗などに掲示。
 - ・地区自治会連合会HP（たななび）や地域情報紙、SNSでの情報発信。
- 交流事業・ホームゲーム観戦バスツアーの実施。
 - ・地域活動交流として、選手やスタッフを地区自治会連合会や単位自治会等の行事に派遣してもらい、地域住民と交流を図る。

総事業費：1,384,965円

うち交付金額：950,000円

3 成果と今後の展望

地域団体としては初となる三菱重工相模原ダイナボアーズと「地域共創パートナー」を締結し、田名地区自治会連合会の取組をPRすることができた。

自治会からの退会者や未加入者から加入メリットを問われることも多い状況で、地域資源である三菱重工相模原ダイナボアーズと連携事業が行えたことは今後の自治会取組のPRとなった。

地域住民の中でラグビーを通じた共通の話題が生まれたり、顔見知りが増えりするなどコミュニティの輪が広がっている。

今後は、当該事業をいかに継続し、発展させていくかが課題である。

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
令和5年 10月～ 令和6年3月			・打合せ（計7回） ・オリジナルクリアファイル配布（16自治会） ・のぼり旗・ポスター設置 （16自治会、公共施設及び協力店舗など） ・横断幕設置（7自治会及び地区内小中学校）
11月30日			地域共創パートナー締結 （期間：令和5年11月1日～令和6年9月30日）
12月9日	ギオン スタジアム	52人	観戦バスツアー（第1回）
2月24日	ギオン スタジアム	58人	観戦バスツアー（第2回）
3月10日	ギオン スタジアム	62人	観戦バスツアー（第3回）



ホームゲーム観戦バスツアーの様子
（令和5年12月9日）

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 田名地区三菱重工相模原ダイナポアーズ
応援事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性 事業目的や 内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		地域課題でもある「自治会加入率の低下」に対して、地域資源とも呼べる「三菱重工相模原ダイナポアーズの応援」を解決策に捉えており、事業の目的とその内容は明確である。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性 事業内容や 支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性 団体の自立性や 事業の継続性、 発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業実施にあたって、各会員の役割を分担して行う体制が整っていた。 また、応援バスツアー参加者へ本事業の取組に対する呼び掛けを行うなどして賛同者を増やす努力を行っていた。 今後、本事業効果を踏まえながら、地区連自主財源での予算化に向けて取り組まれていくことに期待したい。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性 事業の発展や 他の団体へ 与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		事業初年度ということで他団体との具体的な連携まで至らなかったものの、取組に対する周知を行った中で応援バスツアーへの参加、ポスター掲示等地域の一体感を醸成することはできた。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定 目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		数値目標はないが、三菱重工ダイナポアーズの話題をきっかけに、地域住民の間で交流が生まれていることを確認した。
6	区独自の視点 事業の地域性や 独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		区別基本計画の取組みの方向 - 3「誰もが桜やJAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます」の取組に該当する事業で、地域資源である三菱重工相模原ダイナポアーズを生かして、地域住民の交流の機会が創出された。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

上溝地区「上溝さくら公園イルミネーション事業」

1年目

上咲実行委員会

1 背景と目的

上溝さくら公園は、園内に39種の桜が植栽され、秋から春にかけて様々な桜の開花を長く楽しむことができる。その魅力を多くの地域住民知ってもらう機会として、これまで、春には「さくらまつり」、秋には「秋祭り」を開催。冬季においても、地域住民のコミュニケーションの機会となるような新たな魅力づくり事業を進める。

2 内容

上溝地区自治会連合会が中心となり、ALL上溝で地域関係団体と共に、上溝地域の冬の風物詩となることを目指して、上溝さくら公園を舞台に「イルミネーション事業」を実施することにより、賑わいを創出し、新たな担い手発掘・育成や、上溝地域のシビックプライドの醸成を図る。

総事業費：1,006,073円

うち交付金額：868,000円

3 成果と今後の展望

○今までになかった上溝の冬のイベント事業として初開催され、新たな地域住民のコミュニケーションの機会の創出となった。

○地域団体と地域の高校生との絆が深まり、連携も一層スムーズとなった。

○今後は、上溝さくら公園内だけでなく、商店街の協力を得て、上溝商店街あたりまでイルミネーション装飾の範囲を拡大したい。



上溝さくら公園 イルミネーションの様子

(参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
8月28日	9人	会議（事業内容検討）
10月20日	6人	会議（事業内容検討）
10月31日	6人	会議（事業内容検討）
11月1日	約20人	会議 （上溝南高等学校地域連携実行委員会と打ち合せ）
12月5日	9人	会議 （イルミネーション業者との最終打ち合わせ）
12月16日	約500人	上溝イルミネーションオープニングとして、点灯式イベント開催
～1月13日		点灯式から1月13日（土）までの約1ヶ月の期間における16時～20時まで毎日点灯

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； 上溝さくら公園イルミネーション事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		冬場は地域で実施されるイベントも少なく、外出する機会も減り、地域住民同士の関わる機会が生まれづらい。イルミネーションという誰もが楽しめるものに着眼した本事業は、地域交流が図られ、地域住民が郷土に魅力や誇りを改めて感じる機会となった。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施が適切になされており、支出についても過剰な点は見られなかった。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業の企画や周知、運営に至るまで、会員を中心に主体的に事業が実施された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		初開催事業として、地域の高校生や協力団体と密に連携して準備や運営を行ったことで、地域の連携する力の向上に繋がった。また、この事業は、若い新たな担い手（高校生）がまちづくりに参画する楽しさや醍醐味を味わう機会となった。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本事業は、重点的な取り組みである「商業振興によるにぎわいづくり」、「文化が薫り、誇りを持つまちづくり」に該当する事業といえる。「上溝さくら公園」という地域資源を活用した本事業により、新たなにぎわいが生まれ、担い手も来場者も地域に魅力を感じ愛着を持つことができた。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

上溝地区「すきだよ かみみぞ～上溝かるたをつくろう～」

2年目

上溝かるたをつくる会

1 背景と目的

近年、感染症対策の行動自粛等により、地域の行事や交流活動ができない状態が長く続いたことにより、地域住民同士の関わりや郷土に対する関心が希薄になることが懸念されることから、地域の関連機関と連携して地域活性化を図ることができる取組が必要であると考へた。そのような中で昨年度「上溝かるた」を1,000部作成し、地域の関連機関に配付。配付を実施する中で、「上溝歴史を知ることができた」「久しぶりにかるたをして楽しかった」「またやりたい」「家族と一緒にやりたい」など効果的な意見も多く聞かれています。しかし、高齢者からは「札が見えにくい」「もっと大きい物だとやりやすい」との意見が多く聞かれ、かるたの普及や地域住民の交流の支障になっている現状がある。

2 内容

- 地域の団体や教育機関等と連携・協力して、地域のよさや歴史などをもとにした「上溝かるた」を作成することを通して、地域交流の促進と郷土に対する関心を高める。
- 作成したかるたを地域の学校・施設・自治会などの機関や地元企業や商店街等にも配付したり、活用したりする活動を通して、上溝地域の新たな発見と新しい地域交流のあり方を提案する。

総事業費：536,000円

うち交付金額：536,000円

3 成果と今後の展望

○3月20日に上溝公民館にて開催した「かるた大会」には未就学児、小学生やその母親、高齢者など様々な世代の参加があり、年代関係なくグループになり実施。世代間交流になった。中には4世代（子、親、祖母、曾祖母）の参加があった。

○認知機能が低下している高齢者も楽しんでいた様子で、拡大版のかるたは見やすいとの意見も多かった。

○配付した団体から「やってみます」との声も多く聞かれ、上溝のことを知ってもらう機会にもつながると考える。

○来年度以降もかるた大会を計画していき、世代間交流や地域への愛着を強めるツールとして活用していけると考える。開催回数や開催方法等は未定だが、次年度もかるた大会を計画する。様々な世代に参加していただけるように、周知方法についても検討していく。



上溝かるた(はがきサイズ)



かるた大会の様子

(参考)実施経過

実施日	参加人数	内容
12月	4人	各団体へのかるたの配付活用の検討と企画
1月	5人	かるたを用いた企画(上溝かるた大会)の検討
2月	7人	上溝かるた大会の検討、上溝かるた(拡大版)の作製 250部
3月	40人	上溝かるた大会の実施、上溝かるた(拡大版)の配付(主な配付先:高齢者施設、老人クラブなど)

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； すきだよ かみみぞ
～上溝かるたをつくろう～

項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		今回作成した大判のかるたは高齢者にとって大変見やすいものとなり、これによって、かるたを使った交流への参加も比較的容易になったと考えられ、評価できる。今後、世代間交流ツールとして「かるた」を一層有効活用してもらいたい。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施が適切になされており、支出についても過剰な点は見られなかった。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業の企画や周知、運営に至るまで、会員を中心に主体的に事業が実施された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本事業は「地域交流の促進と郷土に対する関心を高めること」を主目的としているものであり、今後、ますます地区全体にその効果をもたらすものと期待される。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		かるた大会には様々な世代が参加し、地域について楽しく学び、普段はなかなか触れ合うことのない住民同士の交流が生まれた。自然と郷土に対する愛着が醸成されたと考えられる。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		地域交流の促進と郷土に対する関心を高めることに寄与する事業は、区別計画に掲げる目的に沿った内容であった。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

総合評価（A・B・C）

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしておりかつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

令和5年度実施

中央区 地域活性化事業交付金 事業まとめ誌

発行 令和6年6月

編集

相模原市 中央区役所

相模原市中央区中央2丁目11番15号（市役所本館1階）

お問い合わせ先

中央6地区まちづくりセンター

電話 042-707-7049 F A X 042-757-2941